



ぴっぴだより

NO2. 2017. 5. 2

ひとつ大きくなって一ヶ月。どんな1年になるのかな…。ワクワクしています。

おおくりさんが「ちいさい人のお世話や一日の最後の片付けなど張り切って走りまわっています。『おおくりさんって面倒くさいんだよね〜』なんて言っているけど、ひとつおおきくなったことへの喜びや誇りを感じます。

くりさんは仲間同士の遊びを大々とおおくりさんと並んでちいさい人への気がかいも見せています。

まつぼっくりさんは(自分たちは)「まつさんになったから。」と大人に頼らず、友だちとの遊びをふくらませ、ケンカする友だちの仲裁やなだめる姿も見せています。

どんぐりさんは、木柵のない「森」という場所を体全体で感じとり、ぴっぴの森を体にしみこませているように感じます。ほんどのどんぐりさんにとって親御さんから離れてすぐ初めての集団生活だと思ってしまうのですが、実に落ち着いています。時々思い出して「ママは…?」と涙ぐむ姿も見られますが、楽しい声が聞こえるとフッと涙も消えてしまいます。この一ヶ月嬉しい時間をたっぷりたっぷり過ごしてきました。子どもたちの育ちに胸がいっぱいです。

この一ヶ月子どもたちを見て感じたのは、「一生懸命友だちと遊んでいる」ということ。今まで居た友だちが一年生になり卒業していき、引越してお別れもありました。友だちが変わると遊びの関係性も変わってきました。どんぐりさんもしっかり仲間としておおきい人たちの遊びに入っています。その中で子どもたちは新しい関係の中の友だちを「知ろう」としているのかな。と感じました。「初めて会ったこの子はどんな事が好きなのかな。」「この子とあんまり遊んだことがなかったけどこんな事出来るんだね。」「自分と同じこの遊びが好きなんだね」など…。また逆に「こんな事言うと怒っちゃうんだ」「こんな遊びは好きじゃないのかな」とひとりひとりを知っていくと、その人の在り方がわかってきます。喜びも笑いも怒りも知っている。「この子はあの事に怒っているんだ。」とわかり許せることも出来るし「待つことも出来るのかな。また「こんなことしたら喜んでくれるかも。」と笑わせようとして…。子どもたちを見てるとこんな事を意識しているわけでもなく、指示されたわけでもなく自然に感じとり関わっている姿が見られるのです。一ヶ月たって自分の居心地の良い場所、居心地の良い相手を見つけ、自分の思いも出せるようになってきています。喜びや笑いだけでなく怒りやふっかり合いもケンカも出てきました。

「一生懸命、友だちと遊ぶ」ことが出来るぴっぴの生活がひとりひとりにとってかけがえのない時間だと思っています。ぴっぴの森に一歩入ったら、ぴっぴの私たちはぴっぴスイッチがオンになります。スイッチオフの時にたくさんお家で受け止めていただいている分、オンになった時の時間が大切だと思っています。ぴっぴスイッチがオンになったお子さんの瞬間を大切にどうぞよくお願いいたします。

びも身体もフル回転させているぴっぴのびとたちと共に過ごせる事を喜び、楽しんでいきたいと思っています。

：美穂

おおきいくみだより

新しいおおきいくみがスタートしました。初日、始りのリンリンとともに新しく、新あかりさんが駐車場に駆け出すと、新まつぼっくりさんたちは一瞬「何で?」という表情。けれどもすぐに一緒に走り出し駐車場へ。体操をして周回道路をマウソン。「5、4、3、2、1、スタート!」の掛け声で一番最初に走り出した、まつぼっくりはゴールまでみんなしっかり走りぬきました。

今までの週3回のぴっぴの日に加え、月木のおおきいくみの日。週5日の毎日をつまづきだちは本当に良く遊んでいます。朝、涙はあったとしても、切り替えは早い! 澄鈴、沙季、友佳梨、折原さくらのあうちごっこ。お料理、お掃除とクルクル回っています。トイレの声掛けにも「お仕事が忙いからオシッコにはいけないの。」沙季が首から下げたかわとびの柄をマイクにして「電車がまわりまわります。おまちください。」と突然駅長になりました。が、かわとびは電車を来ない。電車は?と聞くと「もう行ってしましたあ! バスにお乗りください。」するとそれを聞いていた玄太「じゃあ、バス運転するよ!」と木の股に座り込み、シートレバーを動かして、ハンドルを回します。沙季、渚、真永は後ろの木に座ってかわとびをシートベルトにして並んで座ります。玄太「着きましたー。降りてくださいー。」今度は石に両手で一本ずつかわとびを持つ、たまたま走って来て「電車です!」真永、渚、沙季に友佳梨も加わり両手にかわとびを掴んで「しゃぼーん!」と次に場面が展開していきます。その一方で澄鈴、さくらも黙々とお料理。途切れること無く遊びが続きます。リンリンが鳴ってあ片付けにたまって「いやー!」と遊び足りないまつぼっくりの人たち。でもそこでおおきい人たちが切り替えのきっかけを作ってくれることがあります。

お弁当の前、スタッフが手洗いの声掛けをしても「ヤーダヤー。」とにやにや笑顔で広場の何こうへ走り去っていく友佳梨。するとそこへ天音が近づいて何やら話しかけている。天音の顔をジッと見た友佳梨は走り戻って来て手洗いの列に並びました。お帰りの片づけでは、明日も続きがしたくて、泥の入った食器のボールを台の下に隠す澄鈴と沙季。後ろにいた大夢から「もうお片づけしなくちゃダメなんだよ。みんなのみんなから。しばらく黙っている二人でしたが、澄鈴がソロソロとボールを取り出すと、沙季もそれに倣い、二人でおもちゃ置き場に運び始めました。

おおきいくみでは遊びやカリキュラムの中でまつぼっくりからおあかりまで、関わりが深くなっています。その中でまつぼっくりたちは、時におおきい人たちから注意されたりすることもあります。そこから「今、自分がしたいこと」ばかりでなく、「今は何をやる時なのか」を自分で考え、行動する。おおきい人たちもすべてかまちゃんとお出来ているわけではないけれど、自分よりちいさい人に教えることで自分をふりかえることにつながります。たがいに働きかけあって少しずつ、経験を積み重ねています。

去年、一年間のおおきいくみを体験したくりたちはお仕事をカリキュラムもやる気満々。団んぽでは一粒お丁寧に粉を撒き、巣箱作りも釘打ち作業などを楽しんで意欲的に取り組んでいました。

おあかりは雑巾がけやかわとびづくりとやることたくさん。おしゃべりも多いたぐ器用に楽しんで「ものづくり」に取り組んでいます。けれどもおあかりとしてのお仕事もたくさんあって、疲れも出て来ているかな? GWのおやすみは気持ちをゆくり休めて、お元気にぴっぴの森に帰って来てくださいな。(敬称略) 律子

お知らせ

・今年度一回目の保護者会を開きます。ご出席をお願いいたします。

日時) 5月10日(水) 9時20分～お昼頃

場所) バイブル メインホール

・当日はメインバス前ロータリーも駐車可能です。

・降園までメインホールもお使いいただけます。

・5月の森づくり 14日(日) 9時頃～お昼頃

・作業予定 ランチテーブル作り, 森の整備 その他

・ご参加いただける方は、お知らせ下さい。

・5月の小さな茶話会

入園の集いでは「アイスブレイク」という緊張をほぐし交流するアクティビティを行います。茶話会ではもう一歩進んで協力型、課題解決型のアクティビティを行います。赤ちゃんが一緒でも大丈夫です。午前中は身体を動かして、お昼ご飯をばさんで、午後は、ゆっくり語り合う時間を作ります。

集合) 9時30分 バイブルキッズ事務所前

解散) 13時45分頃

持ちもの) お弁当, 水筒, 雨具上下

服装) 動きやすくある程度汚れてもいい服装

何かご質問などある場合は moripippi@gmail.com まで

ご連絡下さい。

・5月は、どんぐりさんの個人面談をお受けいたします。

・希望日をいくつかと保育中か保育後かなど、お知らせ下さい。

・どんぐりさんの2回目以降とまつぼっくりさん～おおくりさんは一休まで、どれもお受けできます。お知らせ下さい。

・今月から、びっぴの森開放日とくまの日は始まります。ご希望の方がいらしたら、びっぴHPでご覧下さい。お知らせ下さい。

お知らせ下さい。

・5/8～6/2のほけ実施日。

5/8(月)・10(水)・11(木)・12(金)・18(木)又は25(木)

19(金)・22(月)・24(水)・26(金)・29(月)・31(水)

6/1(木)・2(金)

・おおきくみの方へのお知らせ

8日(月) アート

アートセットを揃わせて下さい。

9日(火) えりんにたいそう。

・裸足に履き替。

・どんぐりさんには、もう少し、この場に慣れさせてあげます。

15日(月) まつぼっくりは田んぼ

くり・おおくりは、電車の旅。(後日、チケットを郵送いたします)

18日(木)又は25日(木) 田んぼ

29日(月) お料理

・お弁当は要りません。

・メニューは子どもたちと相談します。

・ランチ代300円は、保育料と共にご請求させていただきます。

30日(火) えりんにたいそう。

びっぴの森の木の実たち 4月 ハンノキ



ようやく軽井沢の森にもあたたかい風がふきはじめ、小さな木の芽やスミシの花が顔見のぞかせるようになりました。今年度はびっぴの森や軽井沢にある木の実を月ごとに紹介していきます。目録の袋のシールと連動していますので、楽しみにしていただければ幸いです。

びっぴでこの季節よく歌う「春の風が～ふりてきたら～♪」というように春はよく風がふきます。そよそよと穏やかな風ならよいのですが、強いつむじ風のような風が吹くのも春...と書いていたら「はるかせとぶう」という絵本を思い出しました。このように歌や絵本にもよく登場する『はるかせ』は春の花たちにとってかかせないものなのです。つまり、ふわふわと風に乗っていくたんぽぽの綿毛。そしてあまり考えたくはないですが、アザミの花びら。同じように白樺の花や今日紹介する『ハンノキ』も風に花粉を飛ばして受粉するタイプの花が春先は多いです。これらの花はみずかみスミシや桜などのようにかわいらしく華やかで美しいので、虫には見向きもされません。そのかわり花の形はブライダルと木からさがって風にゆれやすいようにつくられているのです。

『ハンノキ』という名前が「？」という人も多いと思いますが、その木の実にはかわいらしく、リースなどの飾りなどにもよく使われます。小さな松ぼっくりのような実です。軽井沢の山に火山の影響を受けた土地や湿土にはよく生え、白樺もそうですが、木が太ると肥料となり、その土地をこぼす役目のある木です。

この季節、桜のお花見とともに、せう、ハンノキや白樺のユユウと春風にゆれる姿を探してみてください。

菜花 寛



田火田にや

おおきくみでは春の田火田の仕事をやりました。まずは4月初めにホクシツアツアツに種のもみ殻を苗床にまくもみ蒔きの仕事。前日にお風呂の残り湯に浸けて「芽出し」をし、種もみのお尻からは小さな根っこがちょろりとのぞいています。これを黒い紙にのせて、芽はみんぞで観察。それからおおきくさんが育苗土の土の上にパウパウともみ殻をくわつたおぼろに蒔き、まつぼろくさんがエエおいた。その上に種のもみ殻を焼いて炭にして「くん炭」をかけてピニールのトンネルで覆うと「苗床」が出来たり。ひと月じく育苗して田火田の日を楽しみに待ちました。この日はとびりの畑にかつと人参の種まきもしました。

そして、それから2週間経って昨日、お米の赤ちん芽が出たかな?と田火田さん。苗床のぞいて「うわー!」と友佐梨ちゃん。黄緑色の芽がさうしり顔のぞいでいます。沙季ちゃん「これがお米なの?」同々のまつぼろく達も不思議そうに顔。「ほらね、お米から芽が出てるぞ!」とひとく抜いて見せると根元にはお米、そこから芽が出ました。「ほんと!」今はよくわからずとも、一つひとつ仕事を積み重ねていくうちに、きっとひらひらと食べられるものと、田火田さんや畑が「舌ひらいてくることぞい」。この日の仕事は畑でじゃがいもや種もみも植えて、その後「あせ」のよもぎを摘んで草団子も作りました。明日のひらひら汁の「アト」どんく「アト」にも草団子を食べさせてあげたいね。とたたくさんよもぎを採りました。

この日の朝、田火田さんやってきた橙季ちゃんが「ひらひらはうんち?」と言いました。その後、羊たちと遊んでいるときには「うんちはひらひら?」と畑肥の山を見せ言います。「うん! ももちんたちうんちは畑や田火田の肥料ぞいね。こゝに冬の間小屋の中にあるうんちを種もみで、お米畑にまくぞいね。」と「この山全部うんち?」空太ちゃん「これ全部うんちなのにくさくさね、ほくのうんちはくさくさぞいね。」と「うんちだね、ほくのうんちがこゝにこゝに山にたいたらもどくぞいね。」咲きちゃん「またくさくさぞいね、小屋の中のももちんたちのうんちもあんまりくさくさぞいね。」その後しばらく、うんちはわらと混ぜた、発酵するとくさくさぞいと、発酵するとさかかか温からから冬の間は小屋の中が暖かいこと、羊はもぐもぐ食べてものをもう一度口でよく噛んで、それを何度もくり返すから、すくすく肥料が出来ること... などぞい。「うんち! ひらひら!」から話の色々とおぼろくさん言いました。牛舎にはおおきくさんたちは、羊たちもちんちんと田火田のたぬに役に立つてくれればことぞい。E「うんち! ちゃんと様子ぞい。空太「ほら、こゝに草団子から、こゝにこゝにこゝにうんちぞいね!」

浅間山を正面にのぞきながら追分の見晴らしのよい田火田。この田を貸して下りるおぼろ6年生までの荒井多直さん。生まれからうんと追分ぞい、馬や羊などの家畜とともに関わり田火田を作ったらしい生き字引のようなおじいちゃんぞい。馬小屋を建てたり、漬物を漬けてたり、わら畑をやりたり、何ぞも出来ておぼろのうんちぞい。種もみ蒔きの日も種もみの畑で「うんち」と赤いトラクターで土をかきまわしていらつたり、子どもたちは「アトアトーん!」と手を振っていました。 : 美和子